

## KT師重賞本命と見解 【京都記念・共同通信杯】

### 京都記念

タフな阪神芝 2200m 重賞は、サンデーサイレンスの薄い馬。  
中でも父欧州型。サンデー系の中ではステイゴールド系。  
古くから続くベタな傾向。

本命はサンレイポケット。

父も母父も非サンデー系。父ジャングルポケット。

当コース G1 の宝塚記念で超人気薄ながら  
馬券圏内に食い込んだノーブルマーズと近いタイプの配合。

父欧州型ナスルーラ系で母父米国型は  
宝塚記念連覇のクロノジェネシスとも同じ。

直線が短い非根幹距離に出走するのは初ですが、  
むしろ向いている可能性高い血統。

相手にはずらりとステイゴールド系を。

妙味はラーゴム、アフリカンゴールド。

ラーゴムは、トップスピードは足りない反面、  
減速要素が強い馬場での減速幅が少ない馬。  
他馬のスピードが削がれるほど有利。

アフリカンゴールドは様々な距離、  
馬場をこなすステイゴールド×ゴーンウェスト。  
差し馬がまったく伸びない馬場、レース質になれば有利。

## 共同通信杯

過去 10 年の 3 着内に走ったディープブリランテ、イスラボニータ、ドゥラメンテ、スワーヴリチャード、ダノンキングリー、エフフォーリア、シャフリヤールは後にダービーでも連対。クラシック級の素質馬を出す血統を重視。

戦歴、馬柱は前走芝 1800m、2000m の条件戦で 3 着以内だった馬の期待値が高い。

該当馬は過去 5 年で複勝率 57%、複勝回収率 189%。

昨年は前走で新馬戦を勝ち上がったばかりのノーザンファーム生産馬が 2、3 着に好走。

ノーザンファーム生産馬で新馬勝ちから、休養してここで上昇するパターンが主流になるでしょう。

本命はダノンブルーガ。

父は当レースでも実績あるクラシック血統のハーツクライ。母系にはインリアリティ、エーピーインディ。直線スピードと若駒の春に仕上がる体力を強化する血。

昨年も新馬戦直後だったハーツクライ産駒のヴィクティファルスが 7 番人気 2 着。

サリオスやヒシイグアスなどハーツクライ産駒の育成に長けた堀厩舎の管理馬。母系にロミタスを持つのもサリオスと同じ。

上位人気のアサヒ、ジオクリフともに父が短距離、ダート指向。

クラシック向きの直線スピードには優れていない血統。

ダノンスコーピオンはここまでの実績最上位で適性も問題なし。

3連系の3列目はオッズほどの差はない混戦。